

巻頭言

平成 28 年度は、地方創生が叫ばれるようになって 3 年が経ち、内外の施策が安定し始めた時期でした。それに対し文部科学省発の大学改革の波はさらに大きくなり、この年度は学力の 3 要素を念頭に置いた 3 つのポリシーの見直しが全大学に課せられました。これは、大学改革は日本の教育全体の改革と共にあるようにという考え方を基にしており、具体的には高大接続というキーワードが大変多く使われました。学力の 3 要素は学校教育法第 30 条に明記され、(1) 基礎的・基本的な知識・技能、(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、(3) 主体的に学習に取り組む態度とされています。大学には高等学校及びそれ以前の学校の教育改革と歩調を合わせた 3 ポリシーを整えることが求められ、本学も 1 年かけて取り組みました。

また、この 3 つの学力の要素を育成するためのアクティブラーニングや教員の FD の必要性が強調された年でもあります。本学は早い時期からアクティブラーニングに注目しておりましたが、ここに来て言葉の正確な理解の必要性や多様な取り組みがあることなどに気づかされ、1 から出直した年でした。FD についても学生による授業評価に加えて今後は教育の質保証に発展することが想定され、次年度に向けた課題として残りました。

本学の個別事情としては、法人化の第 1 期中期計画と第 2 期中期計画の挟年の年でした。[平成 28 年度の単年度評価] + [平成 23-28 年度の総合評価] のための資料作成が行なわれ、そして [平成 29-34 年度の中期目標・中期計画] + [平成 29 年度の単年度計画] を策定するという作業がありました。大学運営に携わる立場の人はもちろん、多くの教職員が多大な作業を行ないました。

このような多忙な年であっても本来の教育研究や地域貢献とは真摯に向き合いました。学部教育では初年次教育の一環として情報リテラシーやアカデミックリテラシー教育充実に向けたシラバスの見直し再編が行なわれました。大学院に助産師養成課程を開設する方針が決まり、その準備にも追われました。看護キャリア支援センターでは多方面からの期待を受けて平成 29 年度からの認知症認定看護師教育開始準備に取り組みました。地域ケア総合センターでは、かほく市のイオンモールウォーキング事業に協力し、事業評価を任されました。国際交流面もたくさんの事業が生まれ、例年の事業に加えて、学生の初めてのタイでの研修、MOU を結んだ南京中医薬大学の訪問、ノースカロライナ大学からの客員教授の招聘などを行ないました。このように様々な教職員が活動した 1 年でした。

この年報は、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等が、正直にほぼ網羅的に掲載されています。

加えて大学としての自己点検評価報告書を今回初めての試みとして年報に合体し、1 冊にまとめました。従来、自己点検評価は認証評価に合わせて 7 年ごとに行ってきました。この度の自己点検評価は、今後 2 年ごとに行う取り組みのさきがけとなるものです。

皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> にもアクセスしてみてください。本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 17 回入学式
(平成 28 年 4 月 5 日)



夏のオープンキャンパス
(平成 28 年 7 月 16 日)



第 12 回夏期アメリカ看護研修
(平成 28 年 8 月 26 日～ 9 月 8 日)



米国 Family Nurse Practitioner
(平成 29 年 3 月 23 日～ 28 日)



JICA 日系研修
(平成 28 年 7 月 29 日～ 8 月 25 日)



JICA 青年研修
(平成 28 年 11 月 30 日～ 12 月 13 日)



タイ国立チェンマイ大学研修
(平成 28 年 8 月 27 日～ 9 月 11 日)



石川県看護教員現任研修
(平成 28 年 6 月 11 日)



感染管理認定看護師教育課程 微生物検査演習
(平成 28 年 9 月 27 日)



第 13 回卒業式
(平成 29 年 3 月 18 日)